

平和に暮らせる社会にする。

みなさんが不安を抱くこともなく、



なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学進学→公務員養成プログラムを受講→警察官採用試験合格→警察学校入校→警察署地域課に配属され、交番勤務→刑事課に配属

行廣駿さん(1997年生まれ)

上野高校出身
四日市大学 総合政策学部卒業

三重県警察本部

津市栄町1-100
<http://www.police.pref.mie.jp/>

ー学生時代

「高校時代は野球漬けの生活でした。途中で投げ出さずに3年間続けたことで、忍耐力が培われたと思います。継続することの大切さも実感しました。高校卒業後は、四日市大学に進学しました」

大学時代について教えてください。

「総合政策学部で印象に残っているのは、三岐鉄道など地域密着型の会社にスポットを当てて学んだことや、大四日市まつりなど地元の祭に参加したことです。アルバイトなどでは経験できず、初めて社会にふれる瞬間だった気がします。まちに出て、本気の目をした人たちを見るのはとても貴重な経験でしたね。公務員をめざして受講した公務員養成プログラムの講義では、数的推理や判断推理、論文・面接などの試験対策をおこないました。親身にサポートしてくれたので、公務員養成プログラムは心強かったです」

ー仕事について

「警察学校に入り、警察官としての基礎を学びました。一番の目的は、学生から社会人へ意識を変える時間だったと思います。多種多様な思いい人がいるなかでの共同生活は、ぶつかることも多かつたですが、まわりとの接し方など様々なことを学べました。その後、地域課に配属されて交番勤務を。交番の警察官は、交通事故や盗難など、すべての事案に初動捜査で関わることになります。交番で3年間経験を積み、現在は刑事課で働いています」

ー仕事内容を教えてください。

「容疑者に対し、1対1で話を聞かなければなりません。怯んだら負け。常に毅然とした態度で接するよう心がけています」

ーやりがい

「住民から感謝の言葉をいただくこともありますし、刑事はとても達成感の大きい仕事だと思います。事件を解決することが、まちの不安要素を減らし、みんなの安心安全な生活を守ることにつながります。そのことに、この仕事の誇りと責任を感じています」

ーメッセージ

「刑事として働くには、まず警察官採用試験に合格する必要があります。現場では男女平等に扱われますが、今は女性ならではの活躍の場も増えてきています。興味がある方は、男女問わず警察官をめざしてください。学生時代は、いろいろな人と関わりをもつてほしいです。同世代の仲のいい友達だけで固まるのではなく、いろんな世代や価値観の人ともふれあつてコミュニケーション能力を養つておいてください。それが社会に出たときに大切だと思います」



18歳 野球漬けの3年間。高校卒業後、四日市大学に進学。

↓
22歳 公務員養成プログラムを受講し、公務員試験対策に取り組む。

↓
26歳 刑事課に配属。あらゆる事件の解決に向けて、全力で仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



時代に合わせていくことが私の役割。
變化させていくことが私の役割。

なるためには



平松慧之さん (1986年生まれ)

川越高校出身
三重大学 工学部卒業

平松産業株式会社

四日市市大字塩浜 2823-1
<https://hiramatsu-sangyo.com/>

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学進学→一般企業に就職→紙袋を製造する企業に就職→社長に就任

「高校時代は部活や友達と遊んだり、普通の高校生活を送っていました。理系の授業が好きだったこともあり、三重大学の電気電子工学科に進学しました。この大学受験で初めて努力することを経験した気がします。将来のことは、父親の会社を継ぐものと、なんとなく思っていた程度でした」

大学時代について教えてください。

「授業も面白かったです。4年生の研究が印象的です。ものすごく細かい針に強い電界をかけると電子飛び出していくのですが、その電子のエネルギーを測る装置を設計製作しました。計算やシミュレーションを重ねて、夜中まで仲間と研究に取り組んだのはいい思い出です」

ー仕事について

「電気が面白くて、大学卒業後は電気設備を製造する企業に勤め、そこで現場監督をしました。平松産業には29歳のときに入社しました。粉末状の食品やプラスチックの原料など、粒や粉の製品をたくさん入れるために紙袋を製造する会社です。包裝資材全般の販売も行っています。初めは営業として働き、既存のお客様の担当を持ちつつ、新規の飛び込み営業もしました。今は社長となり仕事は広がりましたが、営業としてお客様の担当も続けています」

仕事内容を教えてください。

「私の経営者としての役割は、会社を変化させることだと考えています。紙袋という製品はお客様にとって変わってきたとき、やりがいを感じると思います。一方では、悩んでいた従業員の配置転換をして、半



「これから自分の道を決める大きな道に何度も出会います。どんな道を選んだとしても、やってみると面白いこと、大変なことはそれぞれ必ずあります。別の道のいいところを見て後悔するより、選んだ道を信じ、大変なときこそ、ぐっと堪えて頑張つてください。そうすればだいぶのことは乗り越えられますし、その努力は必ず自分の力になります。それと今の時代の感覚はみんなのほうがもっているので、そのためには、ほかにない価値を提供する必要があります。今は手作業を必要とする紙袋が特徴になっていますが、これまでと同じことだけをしているのではなく、会社を変化させていく必要があります。この挑戦に従業員と一緒になって一つひとつ取り組んでいます。成果が出てくるには3年、10年といった時間が必要かもしれません。これが私の大きなテーマのひとつです」

「やりがい」という言葉が、ほとんど思います。始まつたばかりで大きな達成はないですが、お客様のため、従業員のため、会社をよくしていく責任があります。一つひとつが成果を出しはじめ、会社がいい方向に変わってきたとき、やりがいを感じると思います。一方では、悩んでいた従業員の配置転換をして、半



18歳 大学受験を通して、努力することの大切さを実感。三重大学に進学。

29歳 電気設備関係の企業を経て、平松産業株式会社に入社。営業として勤務。

36歳 社長に就任。時代に合わせて挑戦を繰り返し、会社を変化させていく。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>





駒田貴志さん (1973年生まれ)

石薬師高校出身

Patisserie Cafe こんま亭

いなべ市大安町石榑東1217-1
https://www.konmatei.com/

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→ケーキ屋に就職→お菓子づくり、経営の基礎を学ぶ→独立し、自身のお店をオープン

「昔の僕は、懸垂をやろうとしても1回もできなくて、母親との腕相撲にも負けるくらいのもやしつ子でした…。当時は強くなりたかったです。高校に入り、部活動誘うのときに頑張ればウエイトリフティングならインターハイに行けるよ!」と聞いて、挑戦してみたい気持ちが昂りました。3年間続けて、最終学年ではキャブテンを。自分が頑張れば頑張つただけ結果が出るということを、初めて身をもって感じることができたと思います」

「**下積み時代について教えてください。**

大学の指定校推薦をもらう選択肢もありましたが、歴代のキャブテンの影響もあって就職することに。父親から、「手に職をつけた方がいいぞ」と助言をもらい、求人募集で気になったパン屋とケーキ屋で悩みました。最初は和菓子部門に配属。正直、自分の希望部署ではありませんでしたが、「どうせだったら全部覚えたろ!」と前向きにとらえて頑張りました」

「**大学時代について教えてください。**

大学の指定校推薦をもらう選択肢もありましたが、歴代のキャブテンの影響もあって就職することに。父親から、「手に職をつけた方がいいぞ」と助言をもらい、求人募集で気になったパン屋とケーキ屋で悩みました。最初は和菓子部門に配属。正直、自分の希望部署ではありませんでしたが、「どうせだったら全部覚えたろ!」と前向きにとらえて頑張りました」

「**就職活動について教えてください。**

「大学時代は、部活動を一生懸命頑張つておいたと、『あのときに比べたときに独立して『こんま亭』をオーブンしました。縁があつて経営者の勉強会にも参加させてもらい、経営者感覚をもつた職人をめざし始めました」



「**就職活動について教えてください。**

「大学時代は、部活動を一生懸命頑張つておいたと、『あのときに比べたときに独立して『こんま亭』をオーブンしました。縁があつて経営者の勉強会にも参加させてもらい、経営者感覚をもつた職人をめざし始めました」

「**就職活動について教えてください。**

「大学時代は、部活動を一生懸命頑張つておいたと、『あのときに比べたときに独立して『こんま亭』をオーブンしました。縁があつて経営者の勉強会にも参加させてもらい、経営者感覚をもつた職人をめざし始めました」

「**就職活動について教えてください。**

「大学時代は、部活動を一生懸命頑張つておいたと、『あのときに比べたときに独立して『こんま亭』をオーブンしました。縁があつて経営者の勉強会にも参加させてもらい、経営者感覚をもつた職人をめざし始めました」



18歳 ウエイトリフティングを続けてインターハイに出場。キャブテンを務める。

19歳 地元のケーキ屋に就職。和菓子部門に配属。途中でケーキの製造に異動し、お菓子づくりの基礎を学ぶ。

28歳 独立して「こんま亭」をオープン。経営者の感覚をもつた職人をめざす。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



—学生時代

「昔の僕は、懸垂をやろうとしても1回もできなくて、母親との腕相撲にも負けるくらいのもやしつ子でした…。当時は強くなりたかったです。高校に入り、部活動誘うのときに頑張ればウエイトリフティングならインターハイに行けるよ!」と聞いて、挑戦してみたい気持ちが昂りました。3年間続けて、最終学年ではキャブテンを。自分が頑張れば頑張つただけ結果が出るということを、初めて身をもって感じることができたと思います」

—メツセージ

「決めたことは、結果が出るまであきらめずに続けることが大事だと思います。その結果というのは人から認められること。自分で出すものではないです。続けることで人から認めてもらえるときがあります。僕の場合は、ケーキ屋をやると決めた以上、ケーキ屋という職業がなくならない限り続けようと思っています」

ケーキづくりを通して日々の中にある小さな幸せを。

最高のサービスを提供できるよう、従業員のみんなが輝ける場所を作る。

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学進学→部活を通して視野の広さを身につける→アメリカに留学→一家業である飲食業を継ぐ



横井健祐 さん(1979年生まれ)

桑名西高校 出身
四日市大学 経済学部(現:総合政策学部)卒業

株式会社歌行燈

桑名市末広町40
<http://utaandon.jp/>

ー学生時代

「高校時代は、軽音部に入つてバンド活動に取り組みました。当時人気のあったハイスターのコピーをしたり、オリジナル曲を作つたりしてライブをしていました。大学ではアメフト部に入り、部活に励んだことが一番の思い出。アメフトを通して、適材適所で自分の役割をまつとうすることの大切さを学びました。また仲間の動き見て自分の役割を考える必要があるので、視野を広くもてるようになりました」といいます。その視点は今の仕事でも重要です」

ー仕事について

「大学卒業後、アメリカに3年半ほど留学しました。ビジネススクールのプログラムを受け、英語を学びながら一流ホテルのレストランで働く生活。日本とはまったく違う働き方に衝撃を受けました。自分のやるべきこと、評価、キャリアアップが明確になっているのが海外の良さ。「気がついた人が手伝う」という日本では当たり前の気づかいが、海外ではすぐ喜ばれました。海外の良さ、日本の良さを再認識する機会になりました。『人がすべて』という飲食経営の基盤を身をもって学べたことも大きいです。帰国後、創業145年の歴史をもつ、うどんそばの老舗『歌行燈』に入社しました」

「経営者の仕事は、十人十色。1から10まで全部やる経営者もいます。私は自分ひとりでは何もできないことを知っているので、いかに従業員

ー大切なことは?ー

「地域との関わりです。私たちのようなローカルチェーン店は、地域のおかげで店舗があるという意識を忘れてはだめだと思います。市をまたぐと文化が違いますし、外食の目的も違つてくる。それを把握し、「何をしたらお客様に喜ばれるのか?」を日々考えています」

ーやりがいー

「手書きのアンケートハガキが私にとってお客様のすべて。『おいしいかった!』『また行きます!』という声がやりがいです。先日『子どものころ、祖父によく連れてきてもらつていました。私も孫が生まれたので孫と伺います』というお葉書をいただきました。5世代で通っていただけのなんてすごくドラマがあり

ーメッセージー

「高校生のときの私は、特にやりたいことがありませんでした。少しでも興味があるなら、ぜひ一步を踏み出してください。あとは、勉強もちゃんとしたほうがいいですよ。当時に言いたい(笑)。地道に勉強しておると、選択肢も増えますし、「これをやりたい!」というものが見えてくるかもしれません。なので、すべての従業員に対するリスペクトは会社の中で誰よりももつていてほしいです。お客様に対しても最高のサービスを提供できるよう、従業員のみんなが輝ける場所を作ることが私の仕事です」

ーありがとうございました。ー

「ありがとうございます。何かありましたときに必ず力になります。あとは、笑って楽しい時間を過ごすことです。笑っていると、笑っている人が寄ってくるんです。楽しい学生生活を送つてください!」



23歳

アメリカ留学中にホテルレストランに勤務し、飲食経営の基盤を学ぶ。

27歳

帰国後、歌行燈に入社。店舗開発などを担当する。

43歳

漁師、水産加工会社と協力して未利用魚の活用を考えるなど、社会課題の解決にも取り組む。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



自分の感性で良さを伝えることが仕事。
ありのままを伝えたい。



秦竜平さん(1995年生まれ)

四日市高校出身
名古屋大学大学院 工学研究科修了三重県桑名市
https://www.instagram.com/pasha_ta522/

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学、大学院に進学→アメリカの国立公園を巡る旅に出る→SNSにアップしていた写真や映像をきっかけに撮影の依頼が増える→フリーランスになる

なるためには
「幼馴染」と大人になつたらアメリカに行こう」と話していく、その約束を果たすために20歳で渡米して有名な都市を巡回しました。とある国立公園に行ったときに、人生観が変わったときも、地球に対して自分自身がちっぽけだと感じました」

ー仕事について

「就職活動中に自分のやりたいことがわからなくなり、いろいろ悩んだ結果、まるっと1年間休学して3度目のアメリカへ。3ヶ月間、国立公園を巡る旅に出ました。その記録として写真や映像をSNSにアップするようになり、記録することが大事だと思ったようになりました。コロナの影響で、計画していた4度目の渡米は延期になってしまいましてがこれまでアップしてきた写真や映像を見てくださった方から少しずつ依頼をいただけるようになり、撮影を仕事にすることを決意しました。「いつでもアメリカに行ける環境にしたかった」という思いが、フリーランスの道を選んだ理由として大きいです」

「写真や映像を通して、いろいろな人を感じさせたりワクワクさせたりする仕事です。撮影をしているところの世界も広がっています。それにいろいろな人と出会います。それに



学生時代は、やりたいと思ったことに飛び込んでみてください。一度飛び込めばすごい方向に転がっていくと、僕は信じています。すでに目標がある人はそれをやつたらいいし、まだいまいちピンときていなかつたら無理する必要はないです。まわりと比べなくて大丈夫。僕がアメリカに行きたくなつたように、「これだけは逃せない!」と思う瞬間がきたときに、素直に動いてみるといいですよ」

ありがとうございました。



20歳

ダンスサークルに所属。幼馴染と渡米して有名な都市を巡る

24歳

大学院を休学して3度目のアメリカへ。その記録をSNSにアップするようになる。

28歳

フリーランスのフォト&ビデオグラファーとして活動中。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>

ます。そういう出来事や言葉がやりがいになっています」

ーメッセージ

「学生時代は、やりたいと思ったことに飛び込んでみてください。一度飛び込めばすごい方向に転がっていくと、僕は信じています。すでに目標がある人はそれをやつたらいいし、まだいまいちピンときていなかつたら無理する必要はないです。まわりと比べなくて大丈夫。僕がアメリカに行きたくなつたように、「これだけは逃せない!」と思う瞬間がきたときに、素直に動いてみるといいですよ」

人も自然も笑顔にしたい。
まちの魅力を伝えることが仕事。



ニホンカモシカぬいぐるみ／菰野町観光協会公式・観光PRキャラクター「こもしか」

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学でモノづくりを学ぶ→プラントエンジニアとして勤務→NPO法人に転職し、まちづくりに取り組む

山岡亮さん(1987年生まれ)

四日市南高校出身
静岡大学 工学部卒業

NPO法人ECCOM

三重郡菰野町小島4059
<https://eccom.jp/>

「中学生のころは、祖父に貰つてもらったパソコンでホームページを作っていました。頭の中で想像したものが自由に作れるという点が、もともと好きだった絵と共通していることに気づいたんです。高校では電算無線部に所属し、高校のホームページを更新していました。高校卒業後は静岡大学工学部に進学し、モノづくりを勉強しました。僕はひとりで黙々と作るよりも、人と作ることが好きなタイプ。いろんな分野の人と協力してひとつのモノを作ることが多かったので、チームワークが身についたと思います」

――仕事について――

「地域情報を集約するプラットフォームを作っていたときに、知り合いの方から『観光案内所のスタッフを募集しているんだけど、情報発信が好きなら興味ない?』と声をかけたから、NPO法人ECCOM

で働きはじめました。主な事業は、湯の山温泉や菰野の旬な情報を取材して壁新聞を制作すること。そのなかで生まれたのが、知名度の低かった菰野の特産品『マコモタケ』の魅力を発信する『まこも』でキレイになろう。プロジェクトです。御在所岳山頂にあつた日本カモシカセンターから受け継いだ資料や飼育日誌などを公開している『かもしか資料館』を湯の山温泉の空き店舗を活用してオープンし、その運営もおこなっています」

――やりがい――

「まちづくりの仕事をしていると、お客様と直接顔を合わせる機会があります。『何これ!』『素敵!』

「中学生のころは、祖父に貰つてもらったパソコンでホームページを作っていました。頭の中で想像したものが自由に作れるという点が、もともと好きだった絵と共通していることに気づいたんです。高校では電算無線部に所属し、高校のホームページを更新していました。高校卒業後は静岡大学工学部に進学し、モノづくりを勉強しました。僕はひとりで黙々と作るよりも、人と作ることが好きなタイプ。いろんな分野の人と協力してひとつのモノを作ることが多かったので、チームワークが身についたと思います」



「学生時代は、たくさん読書をするといいですよ。僕自身いろんな本を読みますが、本から得た知識が仕事を役立つ場面も多いです。この仕事は、いろんな人と関わって進めるので、幅広い知識が必要になってきますからね。あとは、自分の興味のあることを見つけて、それに一生懸命打ち込んでほしいです」

――メッセージ――

「学生時代は、たくさん読書をするといいですよ。僕自身いろんな本を読みますが、本から得た知識が仕事を役立つ場面も多いです。この仕事は、いろんな人と関わって進めるので、幅広い知識が必要になってきますからね。あとは、自分の興味のあることを見つけて、それに一生懸命打ち込んでほしいです」

18歳 電算無線部に所属。HTMLを書くのが得意でホームページの制作に携わる。

25歳 知人の紹介で、NPO法人ECCOMで働きはじめる。

35歳 地域が抱える課題を解決しながら、まちの魅力を発信中。



監修
元

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>





楽しくて価値のある人生を送るため、これまで経験していないことに挑戦する。

なるためには

- 必要資格 / 特になし
 - 主な進路 / 高校卒業→様々な仕事を経験→溶接加工などを
おこなう企業に就職→溶接工として勤務→経営に携わる

川口 宗一 さん(1986年生まれ)
石薬師高校 出身

ダイソウ工業株式会社
津市芸濃町北神山1470-3
<https://daiso-ind.co.jp/>

ダイソウ工業株式会社

「これまで経験していないことに挑戦する」というモットーがありま
す。経営を任せられたときに頑張ったのは、この気持ちがあつたから。そ
れで、収益の出し方や会社をよくする方法を独学で学びました」

の仕事は、目標に対してもうれしいです。一還元できるときもうれしいです。課題があるのかを考え、結果が出る仕組みや体制を作ること。単発の結果を出すのは簡単。必死に努力したら1回は結果が出るんです。安定して結果を出せるよう、勝ち続ける組みづくりに取り組んでいます」

「入社後約8年間は現場で溶接工として働きました。でもあるとき上司がタイへ赴任することになり、急に“あとはお前がやれ”って(笑)。経営のけの字も営業のえの字もわからないなか、引き継ぎをして経営に携わることになりました。知らなすことだらけなので、部下に指導もできないですし、試行錯誤の毎日。あのときがターニングポイントで

建築部材の加工や貿易業務をおこなうグループ会社のS.K.コーポレーションに入社しました」

仁事にして

入社後約8年間は現場で溶接工として働きました。でもあるとき上司がタイへ赴任することになり、急に「あとはお前がやれ」って(笑)。経営のけの字も営業のえの字もわからないなか、引き継ぎをして経営に携わることになりました。知らな

月から、ホールディングス体制に移行し、グループとして部品製造だけでなく、資材調達から製造機械の設計・提案・据え付けまでできることがDAI-SOホールディングスとしての強みです。大切にしているのは、お客様・従業員を含めて「人」です。「人に必要とされることが存意義。世の中に価値、生きた証を、せる場所を作つていきたいです」

やりがい

言・提案・据え付けまでできることがDAI-SOホールディングスとしての強みです。大切にしているのは、お客様・従業員を含めて「人」です。「人に必要とされることが存在意義。世の中に価値、生きた証をさせる場所を作つていきたいです」

の時その時を全力で生きていました。高校卒業後は、建築部材や食品関係、薦職など本当にいろいろな仕事を経験しました。いろいろな人と関わりを通して、上下関係や人間関係の大切さを学びました。まわりからも遊んでいたのに見えたかも知れませんが、あの時があるから今があると思います。23歳のときに、建築部材の加工や貿易業務をおこ

「本体の幹部がお願意に来たんですね。『本体の社長をやつしてくれ』って、事業内容について教えてください。」「自動車や建設重機、医療・介護ベッドの部品加工および塗装事業をおこなっています。2022年

A portrait of a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a dark blue blazer over a white shirt. He is smiling and looking towards the camera. In the background, there is a large window with a view of trees and a building across the street.



16 歲

肘を壊すまでは野球漬けの日々。高校生活を全力で楽しむ。

23

様々な職業経験を経て、グループ会社であるS.K.コーポレーションに就職。溶接工として勤務。

31

ダイソウ工業社長に就任。ホールディングスとしての強みをいかす経営を展開

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>





伊藤三四郎 さん(1999年生まれ)

飯野高校 出身

株式会社誠文社

四日市市鶴の森2-10-7
<https://www.seibunsha-net.co.jp/>

なるためには

●必要資格 / 特になし
●主な進路 / 高校卒業→物流機器の設計・製造をおこなう企業に就職→営業に配属

製品を安全に輸送する容器を開発し、お客様の課題を解決する。

— 学生時代 —

「飯野高校の応用デザイン科だったこともあり、1年のときはデッサンなどを学び、2年からは彫刻を専攻しました。それからは石や木、樹脂などを使い、素材の魅力をいかした作品制作に熱中。彫刻を学ぶなかでモノの見方が研ぎ澄まされたと思います。粘土でトルソ(胸部)を作ったときも、筋肉のつき方などを注意して見てみると新しい発見が。意識してまわりを見ると、普段からみなさんが目にしている建物や自動車なども、すごく考えられて作り込まれているんですよ」

— 仕事について —

「高校卒業後は、物流機器の設計・製造・オフィス設備や内装のデザイン・販売をおこなう誠文社に就職しました。入社後は、物流デザイン、設計など各部署の仕事を2週間ずつ経験。弊社がどのような商品を製造して販売しているのかを現場で学びました」

最初に戸惑ったことは?

「まわりに同世代しかいない高校時代と社会はまったく違う世界。大人の世界に紛れ込んだような感覚がありました。人の接し方も最初戸惑いましたが、半年ほど研修を通してコミュニケーションの面も学ぶことができたと思います。研修後物流事業部に配属され、私は営業として働いています」

「お客様のニーズに合わせて、製品を安全に輸送する容器や専用の台車を作ったということに誇りを感じます」



— メッセージ —

「私は、そこまで人と話すことが得意ではありませんでした。でも営業の仕事をしていくなかで気さくに話せるようになり、自然とコミュニケーション力が培われていきました。苦手だと思っていたことでも続けていくと意外に上達するものだと思います。高校時代は、部活や勉強など学校の中で学べることがたくさんあります。いろいろなところに目を向けて、学校の内外から様々なことを吸収してください。」

ありがとうございました。



18歳

彫刻を専攻し、モノを見る視点が研ぎ澄まされる。

19歳

高校卒業後、誠文社に就職。研修後、物流事業部に配属。

23歳

お客様のニーズに合わせた容器や台車の設計・製造をおこなう。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



それに大きな責任とやりがいを感じる。
消防士の仕事は人の命を助けること。



なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→公務員試験対策講座を受講→消防職員採用試験に合格→消防学校に入校→各消防署に配属

臼杵快さん(1999年生まれ)

海星高校出身
愛知学院大学 法学部卒業

四日市市消防本部

四日市市西新地14-4
<https://www.city.yokkaichi.mie.jp/syoubou/index.php>

ー学生時代

「野球をやっていたので、朝から夜まで部活漬けの毎日でした。部活を通して礼儀を学ぶことができたと思います。当時は漠然と消防士など公務員になりたいと思っていましたが、その目標が明確になったのは大学時代。事故に遭い、消防士の方が救助に駆けつけてくれたことがあります。その経験から、自分も将来は人を助ける仕事がしたいと思うようになりました」

大学時代について教えてください。
「刑法や民法など、法律について学びました。その中で私が専攻したのは国際法。国家間で結ばれる条約などをについて研究しました。公務員試験に向けて、公務員試験対策講座を受講しました。数的処理など分野ごとの教養試験対策を効率的にできました」と思います。大学のキャリアセンターでは面接や論文対策を何回も手伝ってもらい、不安なく公務員試験に臨むことができました」

ー仕事について

「8ヶ月間、消防学校に入り、ホースを伸ばして放水をする訓練、梯子の取扱い、火災現場の建物への進入の仕方など、消防活動の基礎となる訓練をおこないます。後半は、想定訓練が中心。実際の現場を想定して、与えられた情報をもとに戦略を立てながら活動する訓練をおこないました。仲間と助け合いながら、常に平常心で活動することが大切だと実感しました。あとは、店舗に火災報知器などが設置されているか

仕事内容を教えてください。
「現在は、火災救助、救急、予防、4つすべての業務を担当しています。消防士は人の命を助ける仕事。究極の人助けだと思います。火災が起きたときは、装備を着て出動し、要救助者がいるか、隣の建物に燃え移る可能性がないかなどを無線で確認しながら消防車で現場に向かいます。現場の情報をもとに戦略を立て、消火活動や要救助者の救助に当たります。心がけていることは、まずは自分の命を守ることが大前提。危険と隣り合わせのイメージがあると思いますが、その強い意志が大事だと思います」

ーやりがい

「救急車に乗って出動することが多いのですが、市民の方から感謝の言葉をいたたくうれしいですね。救急車を呼ぶことは、市民の方も人生で一度あるかないかの出来事。慌てている方が多いので、傷病者や呼んだ方の気持ちが落ち着く接し方、不安にさせない声かけを意識してい



ーメッセージ

「私は大学の公務員試験対策講座がとても役立ったので、公務員をめざしている方にはおすすめです。直接では、模範解答を器用に答えるより、『自分は消防士に相応しい!』『消防士になりたい!』という強い思いを伝えることが大切だと感じました。私は消防学校の集団生活を通して、自分自身を深く知ることができました。いろんな性格の人と一緒に暮らすことで、自分の性格や長所短所を客観視できたことも大きいです。学生時代、まずは自分自身を知ることから始めてみてください」

「消防士になりたい!」という強い思いを伝えることが大切だと感じました。私は消防学校の集団生活を通して、自分自身を深く知ることができました。いろんな性格の人と一緒に暮らすことで、自分の性格や長所短所を客観視できたことも大きいです。学生時代、まずは自分自身を知ることから始めてみてください」

18歳 野球部に所属し、部活漬けの毎日。卒業後、愛知学院大学へ進学。

22歳 公務員試験対策講座を受講し、消防職員採用試験に合格。

23歳 消防学校が自分自身のことを探る機会に。火災、救助、救急、予防業務を担当し、日々の仕事に励む。



先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>

